

令和 6 年度

事業所名 : グループホーム 愛の手(ユニット①)

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390100030		
法人名	有限会社 ケアホーム愛の手		
事業所名	グループホーム 愛の手(ユニット①)		
所在地	〒020-0133 盛岡市青山1丁目19-51		
自己評価作成日	令和6年12月23日	評価結果市町村受理日	令和7年4月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhvu

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

5月にコロナウィルス感染者が発生し、夏前の外出が困難な状況になり、その後は気温の高い日が続く、外出ができない日が多かった本年だったが、施設内でのレクリエーションや転倒予防体操、合唱活動に力を入れることで、屋内で過ごされていても退屈されることがないように努めている。食事の前の口腔体操、午前午後のレクの時間に合唱を行い、嚥下の機能を高めるよう努めている。施設内の温度、湿度を適正に保つこと、定時の水分補給の徹底により、猛暑の夏も体調不良者や熱中症の利用者様が発生することなく乗り切ることができた。訪問看護師による勉強会を2か月に一度開催していただき、本年は「熱中症」「口腔ケア」「浮腫」のテーマで、職員の学びを深め、ケアの実践に役立てている。日常生活では、利用者様の得意分野の能力を活かしていただけるような活動を通じて、役割意識を持ち生活していただけるよう支援を行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、いわて銀河鉄道青山駅から徒歩10分ほどの住宅地にあり、1階9床、2階6床の2ユニットのグループホームである。近くには病院、消防署、警察学校、児童養護施設等の公的機関や、小・中学校の教育機関、さらには特別養護老人ホームやスーパーなどがあり生活環境の整った地域に立地している。職員は、利用者様の得意分野の能力を引き出し、居心地の良い生活の場を提供することを心掛け、利用者様の状況に応じて自分のできることに取り組めるよう支援している。また、日々のレクリエーションや作品づくり、合唱、機能訓練等、職員は様々な工夫を行いながら毎日活気のある生活ができるよう支援しており家族からも好評である。家族には、利用者様の生活状況を記載した手書きのお便りを毎月送付するほか、運営推進会議の議事録や「愛の手だより」を2か月に1回送付している。コロナ禍以降地域との交流は低調になっているが、今後再開に向け検討したいと考えている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわての保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和7年1月22日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者様の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者様の 2. 利用者様の2/3くらい 3. 利用者様の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者様と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者様は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者様が 2. 利用者様の2/3くらいが 3. 利用者様の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者様は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者様が 2. 利用者様の2/3くらいが 3. 利用者様の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者様は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者様が 2. 利用者様の2/3くらいが 3. 利用者様の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者様はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者様は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者様が 2. 利用者様の2/3くらいが 3. 利用者様の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者様の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者様は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者様が 2. 利用者様の2/3くらいが 3. 利用者様の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

[評価機関:特定非営利活動法人 いわての保健福祉支援研究会]

事業所名 : グループホーム 愛の手(ユニット①)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念を玄関先に掲げ、職員、来設者に周知している。パンフレットにも示し、職員の日常的ケアの規範としている。	理念は玄関に掲示し、来訪者にも周知するとともに、職員間では朝夕の申し送り、職員会議の場等で随時確認を行っている。また、法人内事業所の組織改変による職員体制の変更があったこと、さらには利用者の重度化等により、認知症ケアのあり方、支援方針等を再度検討する必要があると考えている。	今般の法人内事業所体制の変更及び利用者の重度化等も念頭に、当事業所の目指す姿、実現のための実施目標など、理念の見直しを検討することを期待します。なお、見直しにあたっては、職員間の積極的な意見交換を期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍以降、地域とのつながりが減少したまま回復ができていない状況である。回覧板での情報収集や募金への協力、運営推進委員会を通しての情報収集、伝達を行い、地域の一員としての交流を心がけている。	町内会に加入し、地域の募金活動等は継続されているものの、コロナ禍以降地域活動は低調のままとなっている。コロナ禍以前は近隣スーパーの「スローショッピング」やお茶会、「チャグチャグ馬っこの見学」等が利用者の大きな楽しみとなっていた。今後はこれらの再開を含め、地元関係者と連携しながら地域交流の場を増やすべく様々な企画などを検討していくこととしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍以降、地域貢献が難しい状況となっている。生活圏にグループホームがあることを理解して受け入れてくださっている地域の皆様に、情報の発信をしていきたいと考えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2か月に1度開催している。ホームの近況として入居状況、健康状態、ヒヤリハット、事故報告、参加研修等を報告し、助言をいただいている。	運営推進会議は家族、町内会長、民生委員、地域包括支援センター職員、社長、管理者等が参加し2か月に1回開催している。会議では、利用者の状況、行事・活動状況、ホームでの主な出来事を報告し、その後意見交換を行っている。出席者からは、町内会の行事などの情報提供や事業所運営に関して助言をいただいている。家族の参加は、家族の高齢化、仕事の関係等の理由により低調となってきているが、会議議事録を毎回家族に送付したり、意見交換のテーマの工夫等、家族の参加を促す工夫をしている。	

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム 愛の手(ユニット①)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	盛岡市地域包括支援センターへ運営会議録を提出し、多様な面での連携を図るよう取り組んでいる。昨年、盛岡市地域福祉課による運営指導後に改善した点について、継続できているかを点検し不十分な点をさらに是正し、適切な運営に取り組んでいる。	要介護認定の申請や更新手続きを中心に、管理者が窓口となっており、市担当課との連携を図るようにしている。また地域包括支援センター職員が運営推進会議に出席した際には情報提供や助言を得る等、日頃から連携をとれるよう心掛けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止適正委員会を3か月に1度開催し、身体拘束の廃止、適正化に向けて内部研修やアンケート調査等を行い、全職員が意識的に取り組んでいる。	身体拘束に関する指針を策定し、身体拘束廃止委員会を3か月に1回開催するとともに、身体拘束に関する研修も定期的に開催している。スピーチロック等は職員間で相互に注意喚起しあっている。また、身体拘束に関するチェック表を活用するなど、全職員が身体拘束廃止を正しく理解し日頃のケアを行うよう心掛けている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	管理者研修で学んだ内容を、ケアカンファレンスで伝達し、職員と情報と知識を共有している。虐待を防ぐためには、職員のメンタルケア、ケアする人のケアも必要であることを認識し、情報交換をしようとして適切なケアの実践に取り組んでいる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	会社の方針で、生活保護の方の受け入れを休止しており、現在は学ぶ機会がない。来年度以降、内部研修の題材に取り入れるよう努めていく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、重要事項、看取りについて、個人情報取り扱いについて丁寧に説明し、疑問が発生した際には何度でも納得していただけるまでご説明させて頂くことをお伝えしている。		

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム 愛の手(ユニット①)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議での発言やご意見を議事録にして、外部の方にも閲覧していただけるよう、玄関ホールに提示している。また、議事録はご家族へその都度郵送している。玄関先にご意見箱を設置してご家族、関係者のご意見をいただけるようにしている。いただいたご意見はケアマネ、管理者、施設長、社長に報告し朝礼にて全員に周知して情報共有を図り改善に努めている。	家族には毎月1回、手書きによるお便りと写真を送付し、家族からは日ごろの様子がよくわかると好評をいただいている。また運営推進会議議事録も送付しているが、家族の運営推進会議への出席が最近では低調であり課題と考えている。なお、家族の来訪時や電話連絡等の際に直接ご意見や要望をお聞きするようにしている。利用者の思いは、職員一丸となり、日頃の何気ない利用者の一言をくみ取るように日々努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の申し送り時に気が付いたことを報告する時間を設けたり、職員会議、ケアカンファレンスの機会に意見や提案を出してもらい、意見交換をしている。	職員の意見要望は、スタッフ会議、申し送り、随時開催するミニカンファレンス等で把握するようにしている。さらに、法人代表者は随時職員の意見等を把握できる体制となっているが、個別面談は実施していない。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	可能な限り、有休休暇を取得していただくなどして慰労の機会を設け職場環境の向上に努めている。外部研修への積極的参加の指示があり、職員は自己研鑽に励んでいる。研修参加者は施設に戻り内部研修にて、伝達を行い職員全員に研修内容を伝えスキルアップにつなげている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的にケアカンファレンスを開催することや、外部の講師を招いての勉強会を開催し、職員一人一人が働きながらトレーニングができる環境の整備を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会定例会の参加や、他事業所のケアマネや職員と接触する機会での情報交換などでサービスの質の向上への取り組みへ繋げている。		

事業所名 : グループホーム 愛の手(ユニット①)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	新規契約の前に生活実態調査と称してご本人の状態確認の訪問をケアマネが行っている。書面情報だけではなく、ご本人からの雰囲気や会話の伝わり方等を確認し、受け入れの準備が図られ、ご本人様、職員の安心確保につながっている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所ご希望の段階で、ご本人またはご家族に、来所しての見学をお願いし、実際の施設の雰囲気や設備を見て頂いた上での不安や疑問をお聞きすることになっている。自宅や前施設でのご様子を丁寧にお聞きすることで、信頼関係の構築や相談しやすい関係作りを行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	医科、歯科、看護との連携を図り、基本情報や聞き取りにより必要に応じて補聴器業者、マッサージ、福祉用具の活用、インフォーマルサービスの必要性について確認をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の思いを優先しながら「一緒に」の声掛けを行い家事やお手伝いをお願いし、共同生活の中での役割ややりがいを感じていただけるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月に一度、日常のご様子をお手紙でご家族に送付し日ごろのご本人のご様子をお知らせしている。電話や、来所に互いの意向を確認し、ご本人とご家族との絆を深め支えあえる関係を築けるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人の直筆での年賀状の支援をしている。自室には手紙や写真を飾り、馴染みの人との関係が途切れないように支援に努めている。	コロナ禍以前は花見やドライブ、町内会行事への参加はもとより、チャグチャグ馬っ子や七夕の見学、文化祭等利用者の思いに沿い幅広く活動していたが、コロナ禍以降は外出は控えており、年賀状書き、室内飾りなど事業所内支援にとどまっている。定期的に来訪する訪問診療医師、訪問看護師、薬剤師、理容師等とは馴染みの関係になっている。なお、今後は状況を見ながらミニドライブなどの再開を検討することとしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者様の特性を考慮し、居室や座席の配置を決めている。問題があった際にはその都度ミニカンファレンスを行い配置換え等の対応に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院した際には不安がないようにケアマネがお見舞いに行っている。ご家族の問い合わせにも可能な限り相談に乗り不安の解消に努めている。施設を移る際には担当ケアマネと情報交換を行いスムーズに移れるように支援している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常会話の中でご本人の思いをくみ取るように努めている。また、様子観察を丁寧に行い、声にならない思いやニーズの把握に努めている。ケアカンファレンスやモニタリングの結果を元に再アセスメントを行い、サービス計画書に反映している。	自らの思いを表現できる利用者は少なくなってきた。そのため、一緒に作品作りをしたり、合唱等の日頃の活動の際に、利用者の何気ない言葉から思いや希望を把握するようにしている。帰宅願望や面会の希望等、実現が難しい要望には、全職員が情報共有して対応するとともに、随時家族と連絡を取り合っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人、ご家族、担当ケアマネ、前施設からのサマリー等で基本情報からこれまでの生活歴やサービス利用の経過把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人の日常会話や表情から現状の把握に努め、朝礼や夕礼時に申し送り、ケアカンファレンスの際に検討し情報共有を図っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3か月に1度モニタリングを行い、サービス計画書の見直しを図り良いサービスの提供に努めている。ケアマネ自ら日勤帯の業務に入ることによりご利用者の状態把握がしやすくなっている。モニタリングに基づいてサービス計画書を見直し、良いサービスの提供に努めている。	入居前に介護支援専門員である管理者が家庭訪問を行い、一般状況の確認、本人の思い、家族の思いを把握した上で介護計画を作成している。3か月ごとにモニタリングを行い、6か月に1回見直しを行っている。利用者の状況変化等により随時見直しを行うこともある。	

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム 愛の手(ユニット①)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日、個別のケア記録に日常の様子を記録し、特記事項は業務日誌に記入し、日々のミーティングや毎月のカンファレンスで介護実践に活かし、3か月ごとのモニタリング、半年ごとのサービス計画書の更新に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	季節性のインフルエンザやコロナの流行期に入ったことにより、通院以外の外出は控えている。ご家族との面会も玄関先での短時間の対応となっている。今後は、スマートフォンの機能を利用したオンラインでの面会等も実施していきたい。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	季節性のインフルエンザやコロナの流行期に入ったことにより、地域のボランティアの受け入れや外出しての地域資源の利用ができない状況となっている。温かくなり感染症が落ち着いたのちに利用、参加できる資源について把握、検討に努めていく。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	当ホームのかかりつけ医はもちろん、協力医療機関外への受診も、ご本人ご家族の希望があれば支援し、受診の付き添いにも対応している。	入居の際に本人及び家族の意向を確認しており、家族が高齢者であること、仕事の関係、遠距離である等の理由により、協力医が主治医となることが多い。歯科は随時訪問診療を受け、眼科などは家族が同行するようにしている。受診にあたっては、一般状況を情報提供している。また、薬剤師からは、副作用の説明など具体的に助言を得ている。なお、現在使用しているお薬カレンダーは薬剤師と協議を重ね、使いやすくなっており、結果的には誤薬等が激減した。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションと医療連携の契約を締結し、収入所者に対して24時間体制で医療連携体制を築いている。毎週木曜日に訪問していただき、状態に応じた処置や助言をいただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には施設側から介護サマリー、退院時には病院より看護サマリーを頂き情報交換を行っている。病院の医療連携室のソーシャルワーカーと連携を密にし、その都度必要な情報を得ている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時にご本人、ご家族様のご意向を聞ける範囲で確認している。入居後ご本人様の状態悪化が見られた際には、その都度ご家族様の意向を再確認している。医療連携により、重症化した場合の指針を定めており、全ご家族様の同意を得ている。	重度化及び看取りに関する指針をもとに、入居時に説明の上、意向確認を行っている。また、利用者の状態に変化があった場合には、再度家族に意向確認を行い、協力医、訪問看護師との連携の上対応することとしている。事業所開設以降看取りを行ってきており、その都度対応した職員に対しては管理者がじっくり話を聞く体制をとっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年に1度、急変、緊急時の対応についての研修を行い、手当や対応方法を確認している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回以上の火災想定避難訓練を実施している。その他、地震を想定した訓練等も実施している。コロナ禍以降、地域との連携、協力体制は築けていない。再度連携を図れるよう、努めていく。	年2回火災を想定した訓練を実施しており、1回目は9月に実施、今後年度内に2回目を実施予定である。業務継続計画は作成したが、災害発生時の避難場所の確認、避難場所への具体的移動方法、避難先でのトイレ問題、災害発生時の近隣住民の協力体制の構築等、今後検討を重ねていくこととしている。	災害発生時の利用者の安全を守るためにも、事業所一丸となり、避難場所への移動方法、避難先でのトイレ問題、近隣住民との協力体制など、早急に課題解決に向け取り組むことを期待します。

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入浴時の男女の区分けや更衣、排泄介助時のカーテンやドアを活用してプライバシーへの配慮を行っている。ご本人様の生活歴などの把握に努め、その人に合った声掛けや会話、対応を心がけている。	職員は指示的な言動や威圧的な態度、馴れ合いや思い込みからくる誇りやプライバシーを損ねないようにするためにも、声かけの方法、意思の伝え方等日頃から気をつけている。また、入浴時の声かけや排泄介助の際の声かけ等注意を払いながらケアを行うよう心掛けている。	
----	------	--	--	--	--

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム 愛の手(ユニット①)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者本位の観点から、その都度ご本人に意向確認、お伺いを立ててから介助している。日用品についてはご利用者様に負担していただけるもの、施設で提供すべきものとを明確に区別している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームの日課としての流れはあるが、その人に合わせたペースで入浴日時やお手伝いの変更等ご本人に過度の負担にならないように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類は、可能な限りご本人に選んでいただき、季節や気温とかけ離れた選択をされた時などはアドバイスをしたり、一緒に選定を行っている。洗面所の鏡にて、整容の支援を行ったり、2か月に1度の定期的な散髪では、ご本人の希望を取り入れている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の宅配サービスを導入したが、下ごしらえに必要な食材は一緒に用意をしたり、メニューにならない食事は、行事の時のおやつなど特別な日に提供しご希望に添えるように対応している。	コロナ禍以前は近隣スーパーに利用者と職員が買い物に出かけていたこともあった。昨年4月からは食材宅配サービスを利用している。利用者15名のうち11名が食事準備に何らかの形で関わることができ、職員と一緒に利用者の可能な範囲で野菜の下ごしらえ、盛り付け、後片付けを行っている。主食は両ユニット共通で炊飯し、それ以外はユニットごとに調理している。誕生会、季節に応じた郷土食、正月等の行事食は利用者の楽しみの一つとなっている。誤嚥を防ぐための食事前の合唱や嚥下体操は毎日の大切な日課となっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体重や、血液検査をもとにその人に合わせた食事量に調整している。食事形態も工夫し、刻み食やトロミをつけるなどその方に合わせて提供を行っている。適正な水分量を確保するため、お茶やポカリスエット提供時に摂取量をチェックしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、その人に合わせた口腔ケアを行い、口腔内の清潔保持に努めている。訪問看護師による、口腔ケアの勉強会を開催していただき、知識と技術の向上に努めている。		

事業所名 : グループホーム 愛の手(ユニット①)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	できる限りトイレでの排泄を心がけ、布パンツで過ごしていただけるよう、声掛けやトイレ誘導を行っている。排泄の失敗のある方でも、布パンツにパットの使用を継続しリハビリパンツやオムツの着用を控えるように支援している。	夜間ポータブルトイレ使用者は1名であり、それ以外の利用者はなるべく自力排泄できるよう利用者個々の排泄パターンを確認しながらトイレ誘導を行っている。頻尿の利用者についてはきめ細かな観察のもと、かかりつけ医に相談の上で改善した利用者もいる。便秘傾向にある利用者には訪問看護師の助言を得て、水分補給、腹部マッサージなどを行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	適度な水分摂取や午前午後の体操の実施、食事後にトイレ誘導を行うなど、便秘の予防と自然排便に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回、午前10時または午後2時からの入浴を実施している。入浴拒否についての、カンファレンスを実施し、入浴の声掛けや職員の対応、入浴後の洋服を一緒に選ぶなど、入浴が楽しくなるような工夫を行っている。	週2回を入浴日としている。1階はリフト浴、2階は一般浴となっており、リフト浴は両ユニットあわせ2名が利用している。入浴を拒む場合は、時間や順番の調整等を行っている。入浴の際には入浴前後の一般状況の観察を行い、皮膚の状況など気がかりな点は訪問看護師に情報提供し対応して貰うこともある。また入浴時間は職員との重要なコミュニケーションの場となっており、利用者の思い等を職員間で共有するようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日々の就寝時間がずれないように、テレビや電気の消灯に配慮している。眠れないご利用者様には、声を抑えて会話や傾聴対応を行い、他の利用者様の安眠を妨げないように配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者様が服用中の薬とその効能を綴り、いつでも確認できるようにしている。薬剤師により、お薬カレンダーにセットをお願いし、職員が内服の支援を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や日々の会話の中から、楽しいこと、やりたいことを探り、レクリエーションやお手伝いの工夫をしている。		

事業所名 : グループホーム 愛の手(ユニット①)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	インフルエンザやコロナウィルスなどの感染症の流行期に入り、外出は制限をさせていただいている。ご家族様のご協力をいただいて外出支援する場合もある。	コロナ禍以前は周辺の散歩、ミニドライブ、近所のスーパーでのスローショッピング等を行ってきたが、感染拡大以降外出の機会は激減した。今後は感染予防に配慮しながら近隣スーパーでのスローショッピングや散歩、ミニドライブ等の再開を検討したいと考えている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ホームではお金の管理はしておらず、ご家族様をお願いをしている。通院時の同行介助時などに、タクシーの料金や診療費について明細を示しながら、お金の話をするようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	ご本人からの依頼やご家族の希望で電話やはがきは必要に応じてその都度対応している。携帯電話を所持されているご利用者様もあり、対応可能な範囲で取次やかけ方の支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	インフルエンザやコロナウィルスなどの感染症の流行期に入り、チェック表を用いた定時の換気のほかに運動の後や掃除の後の換気も行っている。加湿器、パネルヒーター、ファンヒーター等を使い温度や湿度を管理し快適な空間づくりに努めている。また、季節に応じた共同作業で作成した作品を飾り、家庭的で過ごしやすい環境作りに努めている。	ホール内はパネルヒーターや加湿器等により調整し、感染予防の観点からも、定期的な換気を行う等快適な環境づくりに配慮している。1階のウッドテラスでは日向ぼっこもできるようになっている。ホール内には季節に応じた貼り絵や作品が飾られている。利用者はそれぞれ自分の好きな場所でゆったりと過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール内の椅子以外にソファを活用して、思い思いの場所でお過ごしいただけるように工夫をしている。また、会話を楽しめるようにテーブル席の配置にも配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に思い入れのある品物や馴染みのある品物を持ってきていただくようお願いしている。家族写真やアルバム、本、人形などを持参していただき大切に扱っている。	居室には、電動ベッド、クローゼットが備えつけられ、入り口には手作りの暖簾を下げる等、家庭的雰囲気づくりを心掛けている。室内には、それぞれ思い出の写真、人形等を持ち込み、壁面には家族の写真、利用者自らの作品などを飾っている。衣替えは居室担当職員が随時行っている。	

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム 愛の手(ユニット①)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様の移動動線を考え、歩行時に安全に移動できるよう、物の位置に気を配っている。手すりが安全に使用できるよう、覆わないように努めている。		